

市民病院だより

鼠径ヘルニア（脱腸）

外科 三宅 徹郎

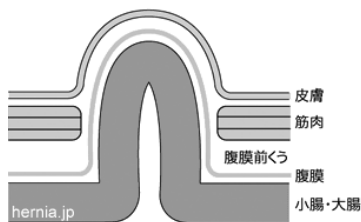
鼠径ヘルニア（脱腸）とは

一般に「脱腸」と呼ばれる病気です。

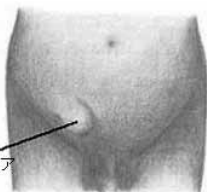
本来ならお腹の中にあるはずの腹膜や腸管の一部が、「鼠径」と呼ばれる太もものつけね部分の筋膜の間から皮膚の下に出てくる下腹部の病気の

こと（図1）

●そけいヘルニアの病態



（図1）



鼠径ヘルニアの位置

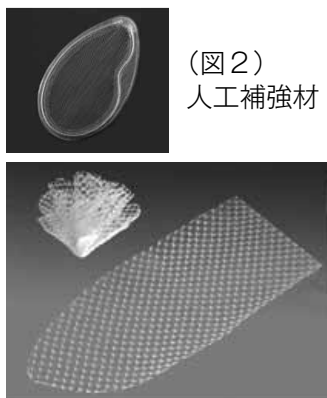
態「嵌頓」になると、腹痛や嘔吐などの腸閉塞症状を併発し、緊急手術を必要とする場合もあります。

治療法

子どもの鼠径ヘルニアは一部の人で自然に治ることもありませんが、成人は自然に治ることはなく、治療には手術が必要です。

手術方法は、以前はヘルニアの原因である鼠径部の弱くなった組織を修復するために筋膜などを糸で縫合するだけでしたが、現在は人工補強材（図2）を用いてヘルニアの出口を塞ぐ手術が主流になっています。

（図2）人工補強材



また、従来どおりの鼠径ヘルニア直上で4〜5cmの皮膚切開を行い、お腹の外から人工補強

材を挿入し固定する手術に加えて、最近では腹腔鏡を用いてお腹の中から人工補強材を挿入し固定する手術も広まっています。

手術時間は、従来どおりの手術であれば40〜50分程度、腹腔鏡手術であれば1時間〜1時間半程度で、どちらの手術も基本的には安全な手術です。

入院期間

手術翌日から歩行可能で、基本的な日常生活は可能です。

入院期間は手術や麻酔の方法、患者さんの状態により異なりますが、基本的には5日間程度の短期間で自宅退院が可能です。

また、手術当日に自宅に帰ることができる日帰り手術を行っている医療機関もあります。

鼠径ヘルニアをお持ちだったり、気になる症状がある人は、最寄りの医療機関へご相談ください。

変更のお知らせ

4月からリハビリ科外来が週4日（月・水・木・金曜日）になります。詳細は、ホームページや電話にてご確認ください。

【問合せ】小城市民病院 ☎ 73・2161 ホームページ・アドレス <http://www.city.ogi.lg.jp/hospital/>